
中国情報（畜産）

2007年4月10日号

◎2006年における中国の牛・羊肉市場分析

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2006年における中国の牛・羊肉市場情勢の分析結果について発表した。その概要は以下のとおりである。

2006年の中国の牛肉及び羊肉（注：中国では、一般に綿羊とヤギを区別せずに「羊」と総称する。同様に、「羊肉」は綿羊肉とヤギ肉の総称。以下同じ）生産は、引き続き安定的な発展を遂げた。牛・羊肉価格は引き続き前年高となったが、消費水準は依然として低い状態にあり、地域差が大きかった。牛・羊由来製品の輸出は増加したが輸入は減少し、貿易は黒字であった。国際市場においては、牛・羊肉生産量は小幅ながら増加し、貿易量は前年の水準を維持、価格はある程度反落した。

1 牛・羊生産は引き続き緩やかに増加、生産地域の優勢化がさらに進展

2006年の中国の牛・羊生産は引き続き緩やかに増加して畜産物構成の改善が進み、生産地域の優勢がさらに明確になった。

- (1) 食肉生産量に占める牛・羊肉生産量の割合は、引き続き上昇して15%超となり、畜産物構成の改善調整が進展した。
- (2) 牛・羊肉生産は主要生産地域への集中化が進展した。簡易予測によると、肉牛産業地帯における牛肉生産量は全国の総生産量の65%以上、肉羊産業地帯における羊肉生産量は同80%以上を占めるとみられている。

2 牛・羊肉価格は引き続き上昇、牛肉価格の上昇幅は羊肉よりも大

中国農業部畜牧業司の定点調査月報資料によると、2006年の中国の骨抜き牛肉の平均価格は、前年比4.93%高の1kg当たり18.53元（約282円：1元＝15.2円（2006年末相場））となった。そのうち、第4四半期の平均価格は、第3四半期比2.50%高、前年同期比5.13%

高の1kg当たり18.87元（約289円）となった。

牛肉の主要消費地（北京市、天津市、上海市、福建省及び広東省）における平均価格は、前年比5.26%高の1kg当たり21.20元（約322円）となった。そのうち、第4四半期の平均価格は同21.89元（約333円）で、第3四半期比3.21%高、前年同期比6.31%高となった。牛肉主産地（河南省、河北省、山東省、安徽省、吉林省、遼寧省及び黒龍江省）における平均価格は、前年比5.41%高の1kg当たり16.77元（約255円）となった。そのうち、第4四半期の平均価格は同17.12元（約260円）で、第3四半期比3.19%高、前年比5.61%高となった。

一方、2006年の骨付き羊肉の平均価格は、前年比5.92%高の1kg当たり18.62元（約283円）となった。そのうち第4四半期の平均価格は同19.25元（約293円）で、第3四半期比4.90%高、前年比8.45%高となった。

羊肉の主要消費地（北京市、天津市、上海市、福建省及び広東省）における平均価格は、前年比2.41%高の1kg当たり21.71元（約330円）となった。そのうち、第4四半期の平均価格は同22.22元（約338円）で、第3四半期比4.47%高、前年比3.78%高となった。羊肉主産地（山東省、新疆ウイグル自治区、河南省、河北省、内蒙古自治区、四川省及び江蘇省）における平均価格は、前年比4.82%高の1kg当たり16.95元（約258円）となった。そのうち、第4四半期の平均価格は同17.54元（約267円）となり、第3四半期比5.47%高、前年比8.27%高となった。

3 都市部住民の牛・羊肉消費水準は依然として低レベルで、地域差が大

国家統計局によると、1～11月の中国都市部の1人当たりの牛肉購入量は前年同期比4.98%増の2.11kgとなった。都市部1人当たりの牛肉購入支出は、同8.52%増の37.43元（約569円）であった。同時期における都市部1人当たりの羊肉購入量は同4.17%減の1.15kg、1人当たりの羊肉購入支出は前年並みの20.21元（約307円）であった。

中国における牛・羊肉消費は地域差が大きく、都市部1人当たりの牛肉購入量は、最高がチベット自治区の14.74kg、最低が山西省の0.79kgで、両者の間には14kg近くの差がある。都市部1人当たりの羊肉購入量については、最高が新疆ウイグル自治区の10.56kg、最低が貴州省の0.07kgで、その差は約10kgである。

食肉消費構造から見ると、中国における牛・羊肉消費は比較的低レベルにある。1～11月の牛・羊肉の1人当たり消費量合計は、前年同期比1.56%増の3.26kgで、食肉消費量合計（家禽肉を除く）の13.12%を占めている。牛・羊肉の1人当たり購入支出は、同5.2%増の57.64kgであり、食肉消費額合計の15.51%を占めている。

食肉に占める牛・羊肉消費の割合を見ると、消費割合が低いのは江蘇省（8.13%）、浙江省（8.02%）、広東省（7.73%）、四川省（6.74%）、江西省（5.34%）及び貴州省（5.09%）、消費割合が高いのはチベット自治区（65.63%）、新疆ウイグル自治区（63.6%）、寧夏回族自治区（47.67%）及び青海省（45.35%）であった。牛・羊肉消費の割合の差は、主

として伝統や習慣の違いに基づくものである。

4 牛由来製品の貿易は前年並み、輸出が輸入を上回る

2006年の中国における牛由来製品の輸出額は、前年比0.53%増の1.83億ドル（約220億円）となった。そのうち牛肉の占める割合は35.15%、牛肉加工品は44.72%、生きた牛（種雄牛を除く）は20.05%であった。

一方、輸入額は同53.58%減の4,382.84万ドル（約53億円）となった。そのうち牛肉の占める割合は19.28%、牛肉加工品は7.88%、牛副産物は17.28%、種雄牛は55.45%であった。これにより、牛肉製品の貿易黒字は1億ドル（約120億円）を超えた。

(1) 牛肉は輸出入とも増加

2006年の中国の牛肉輸出量は前年比43.67%増の2.74万トン、輸出額は同54.59%増の6,415.75万ドル（約77億円）となった。牛肉の主要輸出相手先は香港特別行政区、ヨルダン及びクウェートで、牛肉輸出額合計の74.87%を占めた。

牛肉輸入量は前年比24.58%増の1,160.86トン、輸入額は同21.62%増の845.03万ドル（約10億円）となった。牛肉の主要輸入相手先は豪州及びウルグアイで、牛肉輸入額合計の98.57%を占めた。

(2) 牛肉加工品輸出は減少、輸入は増加

2006年の牛肉加工品輸出量は前年比5.99%増の3.34万トン、輸出額は同22.24%減の8,161.70万ドル（約98億円）となった。主要輸出相手先は日本、韓国及び香港特別行政区で、主要輸出省は河北省及び山東省であった。

輸入量は前年比1.10倍の227.18トン、輸入額は同24.43倍の345.50万ドル（約4億円）となった。主要輸入相手先は、ニュージーランドであった。

(3) 牛副産物輸出は増加、輸入は減少

2006年の牛副産物輸出量は前年比72.71%増の172.54トン、輸出額は同52.29%増の7.49万ドル（約899万円）となった。輸入量は同38.10%減の4,171.59トン、輸入額は同41.94%減の757.51万ドル（約9億円）となった。

(4) 生きた牛の輸出は増加、種雄牛輸入は減少

2006年の生きた牛（種雄牛を除く）の輸出量は前年比0.34%増の5.42万頭、輸出額は同4.45%増の3,659.02万ドル（約44億円）となった。種雄牛の輸出量は同69.61%減の1.51万頭、輸入額は同67.29%減の2,430.18万ドル（約29億円）となった。種雄牛の主要輸入相手先は豪州及びニュージーランドであった。うち豪州からの輸入額は1,849.52万ドル（約22億円）で、種雄牛輸入額合計の76.11%を占めた。

5 羊由来製品輸出は輸入を若干上回り、貿易黒字が拡大

2006年の羊由来製品（中国では、一般に綿羊とヤギを区別せずに「羊」と総称。前出）の輸出額は、前年比18.08%増の7,051.96万ドル（約85億円）となった。うち羊肉輸出額が94.66%を占めた。輸入額は同10.69%減の5,040.58万ドル（約60億円）となった。これにより、貿易黒字は同6.45倍の2,011.38万ドル（約24億円）となった。

（1）羊肉輸出は増加、輸入は減少

2006年の羊肉輸出額は、前年比17.81%増の6,675.57万ドル（約80億円）となった。輸入額は同7.93%減の5,017.28万ドル（約60億円）で、貿易黒字は1,658.29万ドル（約20億円）となった。

主要輸出相手先はヨルダン、リビア及び香港特別行政区で、羊肉輸出額合計の63.09%を占めた。また、主要輸入相手先はニュージーランド及び豪州で、その輸入量計は3.65万トンとなり、羊肉輸入量合計の99.23%を占めた。

（2）生きた綿羊・ヤギ（以下「羊」と総称）の輸出は増加、種雄羊の輸入は減少

2006年の生きた羊（種雄を除く）の輸出額は前年比22.95%増の375.73万ドル（約5億円）、輸出量は同5.75%増の8.70万頭となった。主要輸出相手先はサウジアラビア（輸出額334.88万ドル＝約4億円）で、生きた羊輸出額合計の89.13%を占めた。

また、種雄羊輸出額は前年比88.05%減の23.30万ドル（約2,796万円）、輸入量は同91.34%減の157頭となった。そのすべてはオーストラリア産であった。

6 国際市場分析

（1）牛・羊肉価格

米国の牛・羊肉価格は下落：米国の牛肉生産量は増加したものの、輸出が不調であったため、牛肉の供給量が増加し、国内の牛肉価格は下落傾向となったが、下げ幅はそれほど大きくはなかった。2006年の米国におけるチョイス級牛肉の平均平均価格は、前年比2.83%安の1ポンド当たり3.98ドル（約478円）となった。そのうち第4四半期は、牧草コストの上昇により屠畜頭数が増加したことから、価格は低レベルで推移した。

また、骨抜き牛肉（90%生鮮品）の平均卸売価格は、前年比6.67%安の1ロングハンドレッドウェイト（英cwt＝約50.8023454kg）当たり131.34ドル（約15,761円）となった。そのうち第4四半期の平均卸売価格は、前年同期並みの同127.67ドル（約15,320円）となり、第3四半期比1.16%安となった。輸入骨抜き牛肉（90%冷凍品）の平均卸売価格は、前年比5.07%安の1英cwt当たり128.33ドル（約15,400円）となった。うち第4四半期は1英cwt当たり119.92ドル（約13,431円）となり、第3四半期比10%安、前年比8.75%安となった。

一方、米国東海岸のチョイス級羊肉の平均卸売価格は、前年比4.34%安の1英cwt当たり200.68ドル(約24,082円)となった。そのうち第4四半期は、同210.54ドル(約25,265円)となり、第3四半期比3.52%高、前年比5.86%高となった。

(2) 世界の牛・羊肉生産量は増加

世界の牛・羊肉生産量は増加した。国連食糧農業機関(FAO)の概算統計によると、2006年の世界の牛肉生産量は前年比1.86%増の6,570万トンとなった。

米国とカナダの牛肉生産量は増加、羊肉生産量は若干減少：12月30日までの2006年の米国の牛の屠畜頭数は前年比4.1%増の3,313.60万頭、子牛の屠畜頭数は同2.7%減の69.81万頭となった。牛肉生産量は、同5.7%増の1,167.87万トンとなった。羊の屠畜頭数は同0.3%減の254.66万頭、羊肉生産量は同1.3%減の8.04万トンとなった。

また、カナダの牛の屠畜頭数は前年比9.3%増の331.70万頭、牛肉生産量は同8.3%減の118.85万トンとなった。羊の屠畜頭数は、同6.8%減の14.93万頭となった。

(3) 世界の牛・羊肉貿易は前年水準を維持

2006年の牛肉貿易量は、前年並みの660万トンとなった。羊肉貿易量も、同じく前年並みの80万トンとなった。

12月26日までの2006年の牛肉輸入量は、米国産が前年比9.5%減の80.58万トン、カナダ産が同19.6%減の27.48万トン、豪州産が同4.3%減の28.56万トン、ニュージーランド産が同5.3%減の18.07万トンとなった。

牛肉輸出は、豪州産が前年比4.9%増の95.39万トンで、うち日本向けが前年並みの40.58万トンとなった。日本は豪州産牛肉の最大の輸出先であり、豪州からの牛肉輸出額の42.5%を占めている。豪州からの米国向け牛肉輸出は、前年比7.4%減の29.53万トンとなった。

また、豪州からの子羊肉(ラム)輸出は、前年比3.6%増の14.67万トンとなった。うち米国向けは同2.2%減の3.98万トンで、米国は豪州産ラムの最大の輸出先であり、豪州からのラム輸出額の27.2%を占めている。羊肉(マトン)輸出量は、同15.3%増の16.29%であった。うち中東向けは同19.5%増の4.31万トンで、中東は豪州産マトンの主要な輸出先であり、豪州からのマトン輸出額の26.4%を占めている。

7 2007年の状況展望

(1) 国際市場

FAOによると、2007年の世界の牛肉生産量は、前年比2.8%増の6,750万と予測されている。同じく羊肉生産量は同2.7%増の1,380万トンとされている。牛肉貿易量は同9.2%増の720万トン、羊肉貿易量は同4.6%増の90万トンと予測されている。

牛肉市場の回復、特にアジア市場における牛肉需要の高まりによって、牛肉価格はある程度反発する可能性があるものの、南米の牛肉供給量が増加し続け、価格の上昇幅が抑えられる可能性も否定できない。世界の羊肉価格は、供給の増加が引き続き抑制要因となるものとみられている。

(2) 国内市場

2007年の中国における牛・羊肉生産は引き続き増加し、その生産能力と輸出能力は一層増強されるものと予測される。国民経済全体の持続的な増加と住民の消費水準の高まりに伴い、牛・羊肉需要は引き続き増加する。国内需要と輸出需要の強まりによって、牛・羊肉価格は安定的に上昇するものと予測されている。全体的に、牛・羊肉価格は上昇を続けるというのが主要な見方である。